

# UX300e



## EVというひとつの選択肢

### あなたのライフスタイルに 新たな選択肢を提供する

電動化技術によるさらなる走りの楽しさを提供し続けることをめざす「Lexus Electrified」の思想のもとで開発されたUX300e。進化した上質な走りや静粛性、電動化技術における高い信頼性、スマートな快適機能を搭載した一台が、新たなライフスタイルの扉を開きます。

エンジンノイズが発生しないことによる圧倒的な静粛性。加減速のつながりが良いリニアなドライビングフィールや、慣性諸元の良さがもたらす旋回性能。EV化によって実現できた高い基本性能が、レクサスの「すっきりと奥深い走り」を進化させます。



Woven City Reportのデジタル版がございます。

公式ホームページからダウンロードできます。 <https://www.woven-city.global>



TOYOTA  
WOVEN CITY



# WOVEN CITY REPORT

2021.07 vol.2

# 実用化に向け進化したe-Palette



Woven Cityのモビリティサービスを実現するAutono-MaaS専用EV「e-Palette」の実用化に向け、そのサービス提供を支える運行管理システムが公開されました。

e-Paletteは、クルマの概念を越えて、お客様にサービスを含めた新たな価値を提供できるモビリティの象徴として発表されました。

さらに、人々の生活様式が変化し、「人と接触せずに移動する」、また「人が移動するのではなく、モノやサービスが来る」など、モビリティへのニーズは多様化しています。また、Woven Cityでの移動の課題に対して、e-PaletteをはじめとするAutono-MaaSなどの新しいモビリティサービスが提案されています。

Woven Cityでは「必要な時に、必要な場所へ、時間通りにいける」、「必要な時に、必要なサービスやモノが、時間通りに提供される」というジャスト・イン・タイムなモビリティサービスの開発しました。



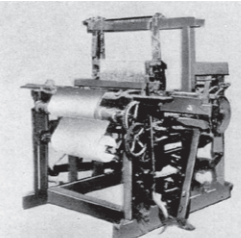
## ヒト中心の街づくり

Woven Cityプロジェクトでは自動運転、パーソナルモビリティ、ロボット、人工知能（AI）技術などをはじめとする様々な領域の新技术をリアルな場で実証していきます。そして、世界中の様々な企業や研究者の方々と一緒に取り組む機会としていきます。

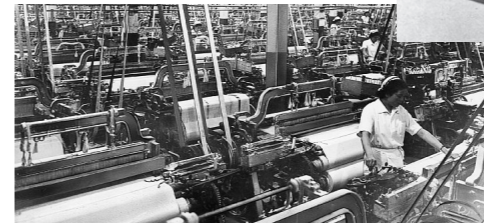
# 世界の「トヨタ」から未来都市Woven Cityへ

## ●紡織会社からのスタート

トヨタ自動車のルーツは1918年に設立された豊田紡織株式会社にあります。創業者自らが発明した自動織機を使つての綿製品の製造・販売に注力し、数年の内に欧米やアジアに製品を輸出する大会社に発展し、1926年には豊田自動織機製作所が創立されます。ところが、1929年の世界恐慌で、その危機を脱するためにとつた手段が事業の多角化です。



39年式織機



繊維機械の総合メーカーへと発展させることで経営の危機を脱し、自動車事業進出に向けての準備を進めていきます。いち早く自動車産業に乗り出すことが会社の発展に繋がると判断しました。

## ●トヨタ独自の生産システムの確立

自動車製作部門が1935年には試作型乗用車とトラックの開発に成功し、その翌年には量産型乗用車も発表します。1937年には愛知県豊田市に工場を設置し、トヨタ自動車工業が設立されたのです。その後、戦時中は陸軍向けのトラックや乗用車が中心となり、航空機部門も設立して航空機用のエンジンも製造しました。

戦後1949年に金融引き締めのために行われたドッジ・ライン政策によって深刻な財政難に陥つたのです。この危機をなんとか乗り越えたことが、その教訓を生かしてトヨ



自動車性能試験場と東富士工場(1967)

トヨタ独自の生産システムが確立されることになりません。1955年には日本初の純国産乗用車であるトヨペットクラウンを発表し、国内自動車メーカーとしての地位を確かなものへとしていきます。



急速に発展したモータリゼーション

## ●日本のトヨタから世界のトヨタへ

1960年代になると、カローラの大ヒットにより業界トップシェアを不動のものにします。同時に、海外でも一定の地位を築いていきます。また、カローラ人気はその後も高まり、1974年に乗用車別生産台数で世界一を記録するまでになりました。



初代カローラ

1989年にはアメリカを主要マーケットとした高級ブランド・レクサスを立ち上げます。そして、その成功によって、日本車が高級乗用車としても世界に通用することを証明してみせたのです。



レクサスLS

1990年～ そしてWoven Cityへ

# WOVEN CITY Progress

## 2021.6 解体工事本格化

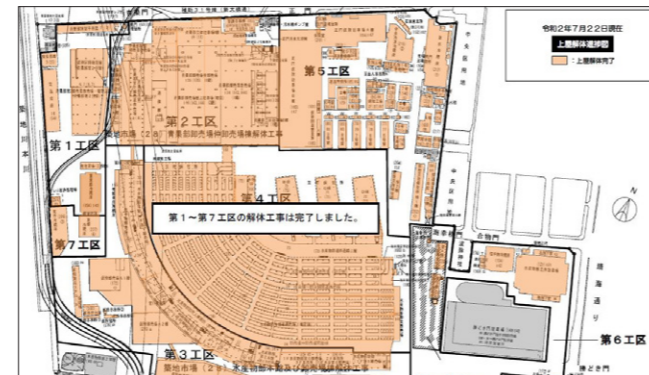
Woven City 建設現場では、建設施設の解体に構造や周辺環境に応じた解体方法を選択します。

### ●階上解体

大きなビルの解体方法として最も用いられる工法がこちらの工法ですが、階上から階下に向かい解体していくという工法のため地上部の安全確保が重要になります。重機も階上にあるので慎重で丁寧な作業が求められる解体方法です。



解体工事進捗状況



### アプリ開発も進行中

人とクルマが気持ちを通わせながらお互いを高め合い、仲間のように共に走るという自動運転の考え方が e-Palette の基本概念です。双方をパートナーとして尊重し合い、運転を楽しみ、本当の安全・安心、移動の自由を実現したいと考え各種アプリケーションの開発を行っています。



### ●地上解体

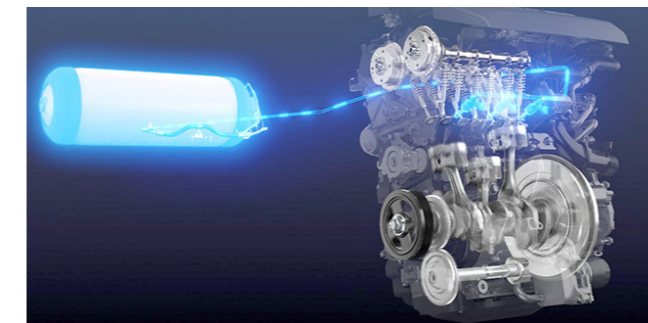
地上解体は先ほど解説した階上解体と真逆の工法で、地上部分から階上に向かって解体していきます。「ロングブーム」や「ロング解体機」といった大型の重機を用いて作業することが特徴です。



# トヨタタイムズ

## 水素エンジンでレースに参戦

トヨタが水素エンジンを積んだ車両で「スーパー耐久 (S耐) シリーズ2021 第3戦 富士24時間レース」に参戦した。水素エンジンは、ガソリンの代わりに水素を燃やしてエネルギーを得るエンジンだ。水素エンジンは、水素を燃料として直接燃やす。ガソリンエンジンと大きく違うのは、「二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) をほぼ排出しない」ということだ。つまり水素エンジンは、カーボンニュートラルにも貢献できる、大きな可能性を秘めた技術なのだ。



## トヨタ生産方式 (TPS) が工場外へ

トヨタ生産方式 (以下、TPS) とは「ムダを徹底的に無くして、よいものを安く、タイムリーにお客様にお届けする」、経営哲学だ。ここで言う「客」は、自分の仕事の後工程すべてを指す。TPS の2本の柱が「自動化」と「ジャスト・イン・タイム」。ニンベンのついた自動化である。「品質を工程でつくり込む」、「人を機械の番人にしない」という考えだ。一方、ジャスト・イン・タイムは「必要なものを、必要なときに、必要な分だけつくる」ことである。



## ヤリスを生んだ、東北のモノづくり

欧州 COTY を受賞したという一報が届いた日、工場の課長以上が集まる朝会では、全員でガッツポーズ。この喜びを見てもらおうと、その姿を写真に収め、ヤリスのもうひとつの生産拠点であるフランス工場に送ったという。現在、東北で完成車をつくらしているのはトヨタだけだ。多くの自動車メーカーや部品メーカーが集まる中部地方など比べ、どうしても東北にはハンデがあるという。だが、それでもトヨタにとって重要な車種であるヤリスが岩手工場で生産されている。

## 森田記者














東富士と Woven Planet Group。2つの取材を通じてトヨタの過去と未来を見てきた。私には、トヨタが歩んできた道とこれから進む道が、一本につながって見えた。2021年は、Woven Planet Group という新体制が整い、Woven City の建設工事もスタート。いよいよプロジェクトが大きく前進する年になりそうだ。



誰もが楽しみ  
心が動くモビリティ  
を届けるために



フレッシュな思考力、コラボレーションできる柔軟性、  
独創性を大切に、みんなでミッションに挑みます。  
私たちの想いに共感できるメンバーを募集しています。

 AUTOMATED DRIVING TECHNOLOGY	 ARENE SOFTWARE PLATFORM	 AUTOMATED MAPPING PLATFORM
 WOVEN CITY	 UX / UI	 CYBER & VEHICLE SECURITY
 IT	 RESEARCH LIAISON	 BUSINESS DEVELOPMENT & STRATEGY
 ADMINISTRATION	 INTERNSHIP	

ご応募は Woven Planet ホームページから  
<https://www.woven-planet.global/jp/home>

# 裾野市が目指す次世代型近未来都市

富士山麓の豊かな自然環境のもと、クリエイティブ・マインドを持った市民・企業等がデジタル技術やデータの利活用により、あらゆる分野の地域課題を解決する次世代型近未来都市を目指し、Woven Cityとの連携を目指しています。

Woven Cityを閉じた空間(テーマパーク)としないためにも、地域住民等にも開かれたまちとする必要がある。また、Woven Cityを訪れる人や企業が多数見込まれるため、周辺整備等を含めたハード・ソフトの対応が必要です。そのためには次のような案件が検討されます。

- 最寄り駅である岩波駅周辺の利便性向上
- アクセス環境の整備
- 人や企業の受け皿として、深良新駅周辺の活用
- 世界から集まるクリエイターとの交流の場の創出
- 外国語や外国文化を市内施設に取り入れるなど居心地の良いまちの形成

## 裾野市の観光施設

### 富士サファリパーク

十里木高原の豊かな大自然に広がる自然動物公園「富士サファリパーク」は、肉食動物、草食動物など80種1000点の動物たちが四季折々に野生の姿を見せてくれます。マイカーでもサファリドライブが楽しめ、ジャングルバスを利用すれば、エサあげも可能。

交通 東名高速裾野I.Cから10km  
河口湖から東富士五湖道路経由50分  
JR御殿場駅から路線バス35分

<https://www.fujisafari.co.jp>



Woven City 発表の前後でまちづくりの前提条件が大きく異なってきました。



パラダイムシフト



別次元のものとして、これからのまちづくりを考える必要があります。

### ぐりんぱ (Grinpa)

キャラクターショーやイルミネーションなど、イベントが盛りだくさん! 富士山の2合目、標高1,250メートルにある遊び心いっぱいの別世界。最大の特色は他に類をみない雄大なロケーションです。

交通 名高速裾野I.Cから車で25分  
河口湖から東富士五湖道路経由45分  
JR御殿場・裾野・三島駅から路線バス  
<http://www.grinpa.com>



富士山ライブカメラ  
裾野市役所からの画像を配信中